

## バーチャルスライドを用いた外部精度管理調査実施に向けた活動と課題

◎石田 克成<sup>1)</sup>、東 学<sup>2)</sup>、樫山 誠也<sup>1)</sup>、常名 政弘<sup>3)</sup>、佐伯 仁志<sup>4)</sup>、滝野 寿<sup>5)</sup>  
広島大学病院<sup>1)</sup>、独立行政法人 国立病院機構 函館病院<sup>2)</sup>、東京大学医学部附属病院<sup>3)</sup>、独立行政法人 国立病院機構 敦賀医療センター<sup>4)</sup>、日本臨床衛生検査技師会<sup>5)</sup>

### 【はじめに】

異常所見のスクリーニングは形態検査の要であり、この力量が不足すると重要な所見の見落としを招く可能性がある。日常検査に沿った精度管理調査を行うため「バーチャルスライドを用いた精度管理調査検討WG」が日臨技に組織され、バーチャルスライドの活用方法の検討を開始した。この2年間のWG活動として、2020年度実施したアンケート調査、2021年度実施したトライアル（病理、微生物）を実施した。今回、現状の課題と展望について報告する。

### 【方法】

2020年度調査では、病理、細胞診、血液、微生物の画像を下記の方法で公開し、49項目の設問についてJAMTQCより回答頂いた。内容は1)施設調査、2)WSIの使用状況、3)WSIの使用目的、4)通信速度、5)モダリティー、6)画質、7)最大倍率、8)フォーカスの調整、9)表示までの時間、10)ビューワーの応答速度や動き、11)使用目的である。画像参照方法として病理はメドメイン社のPidport、細胞診、血液、微生物はライカバイオシステムズ株式会社のAperio

ImageScopeを用いた。2021年度はトライアル（非評価対象設問）として、病理、微生物部門それぞれ1設問出題した。

### 【結果】

調査およびトライアルの結果、解決、改善すべき課題として下記が挙げられた。

- 1.受検施設のセキュリティーポリシーによる制限
- 2.ネット環境やモダリティーの改善
- 3.画質の向上：フォーカスの改善
- 4.倍率の高倍率化：総合倍率1000倍への対応
- 5.バーチャルスライドの認知度向上
- 6.観察出来なかった施設や何度もフリーズを繰り返した施設への対応策

### 【結語】

バーチャルスライドを精度管理調査に用いることにより、日常的な実視野観察に沿った調査が可能となるが、受検施設により画像の観察条件が異なることもあり、更なる資料配信方法の工夫と評価方法の議論が今後の課題となる。

（連絡先）広島大学病院 082-257-5555 内線4123